

～川崎・ボルチモア姉妹都市提携35周年記念～

川崎市民交流団 アメリカ・ボルチモア訪問

2014.
10.15-21

10月16日、市民交流団14人は「ボルチモア・川崎姉妹都市委員会(※)」の皆様のおかげで、盛りだくさんの素晴らしい交流ができました。

※「ボルチモア川崎・姉妹都市委員会」:ボルチモアと川崎の姉妹都市提携に向けて設置され、姉妹都市締結以来活動を継続している、日本人とアメリカ人合わせて数十人のボランティアグループ。

ボルチモア市での交流:

- ①市長表敬訪問
- ②ウォルターズ美術館(The Walters Art Museum)見学
- ③サドブルック・マグネット中学校(Sudbrook Magnet Middle School)生徒との交流
- ④タウソン大学(Towson University)他2大学の学生との交流
- ⑤「ボルチモア・川崎姉妹都市委員会」メンバーとの交流



市長表敬訪問

約150年前に建てられた歴史のある市庁舎にて、ステファニー・ロウリングス・ブレイク(Stephanie Rawlings-Blake)市長を訪問してご挨拶をし、福田市長からの親書を手渡しました。ロウリングス・ブレイク市長からは「川崎市とボルチモア市は長年、多様な交流を続けています、今後もこの関係を大切に発展させていきたいと思います。川崎市長に親書のお礼を申し上げて下さい」とのご挨拶がありました。浮世絵のお土産は特に喜ばれました。



ウォルターズ美術館見学

古代から近代に至る所蔵物の年代幅の広さは、全米屈指と言われています。館長の挨拶の後、主席学芸員の案内で展示品にまつわる逸話や、時代背景等の説明を聞きながら、大変わかりやすく興味深い見学ができました。



サドブルック・マグネット中学校生徒との交流

日本の中学1年生から3年生に相当する生徒たち90名との交流は、生徒10人の自己紹介から始まりました。「宿題はきらいです、でもスポーツは大好きです」とキッパリ言う生徒もいて大笑い。アメリカの子供も道具を使う遊びが少ないとのことで、竹とんぼ、カルタ取り、福笑いをして大喜びでした。

その後「日本の夏にはあちこちの街で祭りが行われ、そこで踊られる炭坑節を踊りましょう」と、団員の音頭で生徒も先生も舞台上上がり、一緒に大変盛り上がりました。最後に校長先生から感謝の言葉をいただき、生徒も名残りを惜しみながらお別れしました。



タウソン大学・スチーブソン大学・ガウチャー大学生との交流

学長代行の歓迎の挨拶と学部長の大学の説明の後、館長のアジアアート・カルチャーセンターの案内がありました。日本、インド、韓国、中国等の展示品があり、アジアのアート、言語、音楽等についての研究を進めていました。

3大学の学生たち35名との交流は、大学からの要望で「書」の実習から始めました。「書道」をしている市民交流団の団員が書いたお手本を見ながら、大学生たちは最初おそるおそる書いていましたが、段々慣れて来ると、立派な字を書く学生が出てきて、指導する団員も熱が入りました。

日本語の学習としての「カルタ取り」は、各テーブルで白熱戦が展開され、日本の「百人一首大会」さながらの様相でした。最後は法被と豆絞りの「コスプレ」。爆笑と拍手で盛り上がりました。



「ボルチモア・川崎姉妹都市委員会」メンバーとの交流

インナーハーバーに隣接するメリーランド・サイエンスセンター(Maryland Science Center)の素晴らしい眺めの特別室でのディナーに招待されました。

お互いのメンバー紹介に続いて、ボルチモアのボーイスカウト団員から、今年7月に川崎市を訪問した際の報告がありました。初めての日本で見聞、経験した、街の風景や箱根の温泉、交通システムや食事など、驚いたことや嬉しかったことの話に、会場は微笑ましい笑いに包まれました。

その後は、日本語・英語が飛び交う和気あいあいの雰囲気でお話が続き、プレゼントの交換が行われました。最後に、ボルチモア市在住で「川崎市名誉国際親善大使」中澤弘先生の指揮で、「さらばボルチモア」という替え歌を団員が合唱し、満場の拍手を浴びて、別れを惜しみながら終わりました。

(文・写真:団長・小島俊彦)



初めてのアメリカ。 折紙を通して作った絆。

副団長:川北 晴子さん

初めて訪れたアメリカは、たくさんの驚きと感動をくれました。

テレビや映画で見たことのある街並みや聞いたことのある音。マンホールから湧き上がる蒸気を見るたび、車のサイレンを聞くたびに、「ああ、アメリカにいるんだ」と感動していました。

また、食事のボリュームにはとても驚きました。覚悟はしていましたが、想像以上の多さにたじろじりました。野菜を食べる習慣があまりないのか、野菜不足に悩まされたりもしましたが、日本との違いを感じることができて良かったです。

ボルチモア市での市民交流では、中学校や大学を訪問し、日本語を勉強している学生たちと日本の遊びを行いました。その中で印象的だったことは、中学校で折紙をしたときのことです。

私は、一人の女生徒と手裏剣作りをしたのですが、途中で折り方を忘れてしまいました。交流団で持参した英語の折り方と完成品と見比べながら折ってみてもなかなかうまくいかず、彼女と四苦八苦。やっとの思いで完成したときは、二人で大喜びハグをしていました。

言葉もうまく通じない二人が喜びを分かち合えるなんて、とても感動的でした。小さいかもしれませんが、そこには絆が生まれたように思います。貴重な体験でした。

■日程表 (日本時間)

10/15(水)	空路ボルチモアへ (ボルチモア泊)
10/16(木)	市内視察 ボルチモア市公式訪問 行政施設等の見学と交流会 (ボルチモア泊)
10/17(金)	ワシントンD.C.視察 (ワシントンD.C.泊)
10/18(土)	ニューヨークへ 着後、ニューヨーク市内視察 (ニューヨーク泊)
10/19(日)	(ニューヨーク泊)
10/20(月)	空路東京(成田)へ
10/21(火)	武蔵小杉駅へ

川崎市民交流団の皆様へ

皆様のご訪問から早くも半月経過し、11月2日朝から冬時間が始まりました。これまで13時間あった日本との時差は、来春3月7日まで14時間となります。

ボルチモアの幾つもの顔を見ていただきたいと、到着翌日から盛りだくさんの催物を詰め込み、日程が厳しすぎるのではと心配しましたが、若々しい交流団の皆さんが眠気を超えて楽しんで過ごして下さい、ほっとしました。

実は、学生たちとの文化交流に関しても、学校関係者とうなるか心配していました。しかし蓋を開けてみると、サドブルック中学の生徒や、タウソン大に集まった大学生たちが、瞬時に交流団の方々の指示に従って熱狂的に参加してくれ、心配は杞憂に過ぎず、経験豊富な皆様の指導力の高さに感銘しました。

短い間の交流でしたが、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。姉妹都市締結35年、今後の第一歩をご一緒させていただき嬉しく思っております。更なるご活躍をお続け下さい。

ボルチモア川崎姉妹都市委員会メンバー
タウソン大学アジアアート・カルチャーセンター諮問委員会委員長
おた 塩田 芳信

第20回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

◎日時:2015年2月14日(土) 13:00~

◎場所:川崎市国際交流センター・ホール(コンテスト)

◎申込:不要(交流会は要事前申込、参加費510円)

入場
無料

来日5年未満の外国人市民が、日頃の日本語学習の成果を披露。コンテスト終了後は、出場者を囲んでの交流会(軽食付き:510円)にご参加ください。休憩の間には、元東京交響楽団首席クラリネット奏者 十亀正司氏ほかの演奏(ミニコンサート)も予定しています。

ただ今出場者募集中!! 締切 1月23日(金)

